

越田会長記者会見要旨

日 時：平成 17 年 12 月 20 日（火）午後 4 時 30 分～午後 5 時 00 分
場 所：フロンティア 21 記者会見場
出席者：越田会長、渡辺副会長、増井専務

冒頭、渡辺副会長から自主規制会議の審議事項の概要について、増井専務から証券戦略会議の審議事項の概要について説明が行われた後、大要次のとおり質疑応答が行われた。

（記者）

みずほ証券の誤発注問題について伺いたい。越田会長は証券業界のリーダーとしてこの問題をどのように受け止めているのか、今後の日証協の役割についてどう考えているのか。

また、西室さんが東証の社長を兼務することが決まったが、西室さんに期待することを、これらの問題を踏まえて話を伺いたい。

（越田会長）

ジェイコム株を巡っては、単純な発注ミスがあったということ、また証券取引所のシステムの不具合とが重なり、重大な事態を招いてしまったことは、大変遺憾である。

今回の問題については、証券界挙げて反省しており、かつ、再発防止のために、誤入力防止の観点からチェック体制の見直しなども含め、内部管理体制の点検を行っていただきたいと考えている。

こうした具体策を通じて投資家の信頼回復に努めてまいりたいと考えている。

また、取引所においては、そのようなシステムの不具合が発生しないように、厳重な調査を行っていただくとともに、同様の誤発注があった場合の取扱いについても、システムによる異常な注文入力の抑止や売買停止の実効性なども含め、早期にご検討いただきたいと考えている。

当協会でも、今回の問題点の是正をするために早急にワーキングを立ち上げたいと考えている。

繰り返しになるが、証券界としては、今回の異例な事故については、早急に各社において管理体制の見直しが行われ、再びこのような事態が

発生しないよう対応していただくとともに、証券取引所においても、適切な対応策を早期に検討してほしいと思っている。

東証の西室氏に関しては、いろいろ広範囲な改革を掲げておられることを聞いているが、当面はともあれ公共のインフラとしての取引所であり、市場内外での取引が適正にかつ円滑に行われることが最大の要望である。

(記者)

二つ伺いたい。まず、自主的なジェイコム株式の利益の返上が必要ではないかというコメントについて、会員証券会社にどれくらいの強制力があるのか、完全に各社の判断に任せるものなのかそれとも半ば強制的にすべきだという考えなのか。

もう一つは、利益金の返上拠出という観点で、現段階で考えられる拠出のスキームはどういうものがあるのか。

(越田会長)

ジェイコム株式の自己売買で得た利益は各社の判断により返上するということである。拠出金の使途あるいは拠出先、拠出スキームは今日も検討したが、拠出スキームを検討するという大枠の合意を得たということで、まだ現在の段階では拠出先や拠出方法は決まっていない。具体的なスキームを出来る限り早く決めたいと思う。既にどこかに寄付された証券会社もある。会員から利益を返上するための受け皿、スキームを作してほしいという要望があり検討しているわけで、このスキームに対して返上される証券会社もあるだろうし、そうでなく社会還元される場所もあると考えている。

(記者)

現在、利益の返上に難色を示している証券会社はあるのか。

(越田会長)

利益を返上したくないという声は特にない。

(記者)

三つ質問がある。まず最初に、もう既にどこかに寄付したところがあるということであるが、どの会社がどこに寄付したのか。二点目に協会

として全会員に利益の返上を要望するということだが、なぜ返上しなければいけないのか、どういう理由なのか。三点目はスキームがまだ全然決まっていないということだが、日本投資者保護基金に拠出するという案が出ていたと思うが、具体的に固まっていないのか。

(越田会長)

既に寄付された証券会社は、特に大きな金額ではないという話であった。どこに寄付されたかは具体的には聞いていない。会社の名前は差し控えさせていただく。

今回の取引に関しては、ご存知のように法的に問題があったわけではない。ただし、誤発注ということが分かって買ったのではないかという話もあるが、誤発注と分かって買ったところばかりではなく、そうでないところもあるようである。変な疑いをかけられるなら返上しようというムードが非常に強い。先ほど申しあげたように、すぐにも返上したいという申し出があり、協会としては一步踏み込んでスキームを勘案しているということである。

受け皿のスキームの案として、投資者保護基金が今日の会議において、検討したことは事実であるが、それ以外にも案が出ている。また税金問題も絡んでおり、そう簡単に決められる問題ではない。

(記者)

今回自主的に証券会社が返上するという事になった場合、証券会社の自己部門のトータルの返上総額は概ね幾らくらいになるのか。

ワーキンググループの中に証券会社における誤発注時の情報開示というのが検討事項にあるが、誤発注を出した証券会社の情報開示に問題があるということが念頭にあるのか。

(越田会長)

トータルの返上総額は全く分からない。

(記者)

5%ルールに該当せずに、その日に売買した会社もあると思うが、表に出ていないから返さないという結果になるというのものもあるのか。

(越田会長)

どこまで返上する範囲かということは今回議論していない。

みずほ証券の情報開示は、もう少し早く行われる必要があったと思われる。いろんな憶測を呼んでマーケットが非常に下落したという意味ではディスクローズが遅れたと考えている。

(記者)

今日の戦略会議の議論のなかで、投資者保護基金に抛出するという以外にどのような案が具体的にいくつぐらい出たのか。

(越田会長)

基本的には二つの案が出た。もう少し応用して考えれば、三つないし四つということになるが、それはまだ議論の過程にあるので、本日申しあげる段階ではない。

ただ、投資者保護基金とは別に他の案も出たが、投資家保護基金に出す場合にも二つのケースがあり、それ以外にも今日話が出たのは、協会を通じて、今回は誤発注その他システムの欠陥が露呈したわけだが、そういったことに対して今後対応策を講じる基金にしてはどうかという意見もあった。

(記者)

確認だが、投資者保護基金に抛出する案と、新たな基金を作るという大きく分けると二案出たという理解でよいのか。

(越田会長)

第一案の投資者保護基金も二つに分かれるわけで、第二案も二つに分かれる可能性もあるということである。

いずれにしても、スキームを作る合意ができたということで、それ以上の話は具体的に煮詰めて話したわけではない。

(記者)

自主的に各社が返上すると言ってくる以上は、なおかつ加盟社に呼びかける以上は、例えば、現在名前が出ている6社以外に全社が返上すべきなのか、そのあたりをどう考えているのか。スキームの話だがまだ時間が浅いので固まっていないのはしょうがないと思うが、透明性、公正性という言葉が今日の自民党の会合で出ているが、どういう議論があって現段階で固められないのか教えていただきたい。

(越田会長)

拠出先および拠出金の使途等のスキームを検討するという大枠の合意を得たというのが今日の会議であり、拠出方法や拠出先は決まっていないために、呼びかけるという話しまで至ってはいない。今日の話では自主的に各社がそれに応じる、あるいは他にもいろんな社会還元をするケースもありえる、ということである。

(記者)

本日の会議にみずほ証券は出席したのか、また、みずほ証券から話しはあったのか。

(越田会長)

みずほ証券は戦略会議のメンバーなので、顧問が出席され、お詫びの言葉があった。

(記者)

自主的に返還すると一口に言っても、証券各社が株主を持っており、その利益を外に出すことは、今後難しい問題が発生すると思われる。今日検討されたスキームを実行するうえで生じる難関な事というのは、今日話題にならなかったという認識で理解しているが、今後あらためて彼らが返上しやすいように協会で助け舟を出すような、例えば「返してください」という要請のような言葉を使って大義名分が立てるような仕組み作りも重要になると思うのだが、どのように考えるか。

(越田会長)

国内の証券会社、外国の証券会社と各々立場が違って、考え方も違うと思うので一律というわけにはいかないという背景がある。出来る限りその中であってもしやすいようなスキームを検討していきたいと考えている。今後とも、より良いスキームがあれば検討していくという段階である。税金がどのように取り扱われるのか、損金算入が可能なのかも含まれており、もし必要があれば当局と交渉するという事を考えていきたい。

(記者)

このスキームは、概ねいつ頃までに固めるのか。

(越田会長)

各社 3 月に決算があるので、出来る限り決算に間に合うように、そして決めてから提出するまで時間がかかると思うので、出来る限り早急に纏めたいと考えている。

以 上